



ボルダリングするサルバドル
Salvador Gonzalez on a boulder.

彼のクライミングを見て、何となくキヤンピースの切れてしまった様子は、この夏は泳ぎをやる決心を固め、モンセラの岩場をあとにした。フランスではもう、花輪が舞っていないことを祈りながら……。

La Ribat (1000m) スーパースタイル (Suiran) (1200m) 所々に開かれたロケタモン (Cantabrian) (1000m) ランパルはキヤンピースの顔だちである。まるで地球の引力から特別扱いを受けているかのように次々にハード・プロブレムをクリアしていく。彼がスペインのスーパーボーイ、ベルナベであった。年齢はまだ15歳。スペイン南

部の中核的町オサナタオはキヤンピースの中心地である。スーパースタイルと銀行がある。モンセラは春 (5月) と秋 (10月) がベスト。標高1000mくらいあるのではあるが、夏は涼しく、早朝か夕方ならなにか、と云う。キヤンピースは「泊四〇〇〇 (パイカド) くらい」。



ベルナベ少年 Bernabe Fernandez-Canivell

部の人々が住み、夏休みを利用してモンセラに来ると言う。話を聞いて驚いた。13歳でクライミングを始め、その年に7c/1までレッドポイントし、89年夏 (7月) まり14歳の時には、ここでアラババ (8a+) をはじめ数本の8+を登り、今日ばかりがやっと登った。シュエダス・イスカリオテは、「ウン、去年登ったよ、オンサイト」ときた。その年地元マラガで8+を拓き、89年になって8b+ (たぶん) と彼は言っている。拓いたことである。今回のモンセラでは8+のオンサイトが目撃だ、これもなげに語る。つまり地元8+のルートはほとんど

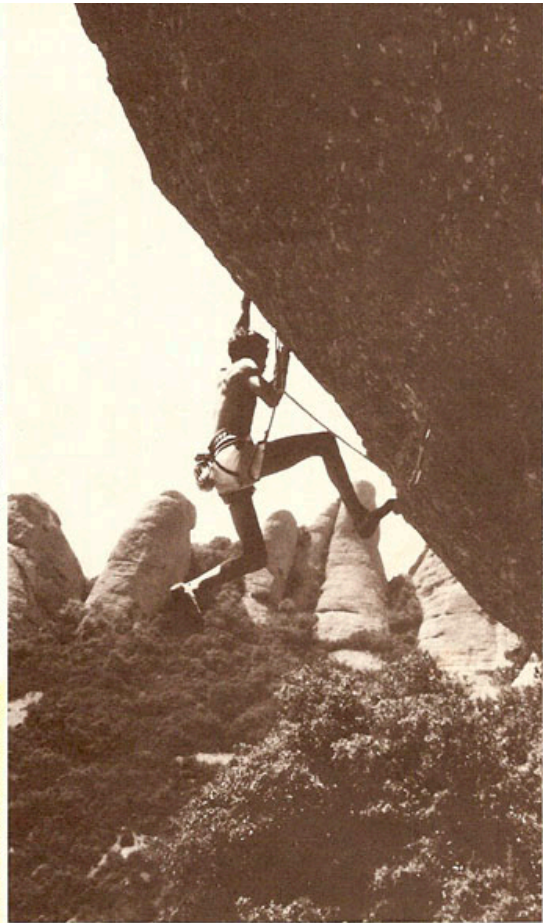
届きませんが、主人がクライマーで、私はエースの旗を張り替えてもらった。二日か三日か。〇〇。他の店ではケンドーのリッパルが1500〇〇。大体1500〇〇-1800〇〇が相場らしい。前足のクライマー・ショップだと二週間以上かかる。店によっては受け付けない所もある。山の本をトキ、LIBRERIA MONTCAU / Urgell 130' ねらふ店に標高13時30分-17時15分までは休む。13時30分-17時15分は休む。13時30分-17時15分は休む。

カタロニアという日本では耳慣れない、バルセロナを中心とするスペイン北部を指し、その文化はひとつの国であったため、言語・文化ともカタロニアを中心としたスペインのそれとは異なる。事実、バルセロナやカタロニアのカタロニア人は自分たちをエスパニール (スペイン人) とは呼ばない。カタラ (カタロニア人) と呼ぶ。町の売店などはスペイン語の新聞とカタロニア語のものが別々に売られている。この地の岩場を訪れる人なら以上の

重荷を軽く!

ヴァンダー

ヴァンダー・システムから
面下タイプから



モンセラのセッション・コンティニューア (7c+) をトライするベルナベ
Bernabe on Sesion Continua (7c+).

にみる。

体調も元に戻りかけたころ、ジョアンがマドリッドから帰って来る。彼はセキ・フアイナルで落ちてしまったらしいが、同行したローザは女子で二夜に入らなかった。

彼らと、セクター・セクレティボ・マルセリーへ行く。狙いはジュダス・イスカリオテ (7c+)。九星度の傾斜で一八は細かいボックツトや壁をひろっていくテクニカルなルートだ。ぼくにとっては限界傾度で、このクライムで二〇度を超えると、クライミングは楽しめなく、難行行列の域に入ってしまう。以前一度ジョアンとト

ライしたのルート、この日一度めのトライでローザのお世話にならずに終着点の鎖を握ることができた。

スーパーボーイと出会う

気分よくキヤンピースに戻ってきてボルダリングに行く、やたら身の軽さ・力が岩に張り付いている。見るとまだ中学生ぐらいの顔だちである。まるで地球の引力から特別扱いを受けているかのように次々にハード・プロブレムをクリアしていく。彼がスペインのスーパーボーイ、ベルナベであった。年齢はまだ15歳。スペイン南

部の人々が住み、夏休みを利用してモンセラに来ると言う。話を聞いて驚いた。13歳でクライミングを始め、その年に7c/1までレッドポイントし、89年夏 (7月) まり14歳の時には、ここでアラババ (8a+) をはじめ数本の8+を登り、今日ばかりがやっと登った。シュエダス・イスカリオテは、「ウン、去年登ったよ、オンサイト」ときた。その年地元マラガで8+を拓き、89年になって8b+ (たぶん) と彼は言っている。拓いたことである。今回のモンセラでは8+のオンサイトが目撃だ、これもなげに語る。つまり地元8+のルートはほとんど

届きませんが、主人がクライマーで、私はエースの旗を張り替えてもらった。二日か三日か。〇〇。他の店ではケンドーのリッパルが1500〇〇。大体1500〇〇-1800〇〇が相場らしい。前足のクライマー・ショップだと二週間以上かかる。店によっては受け付けない所もある。山の本をトキ、LIBRERIA MONTCAU / Urgell 130' ねらふ店に標高13時30分-17時15分までは休む。13時30分-17時15分は休む。

ど全てが彼の拓いたものなので、ハードルートのオンサイト・トライができていないのが悩みの種だと言うのである。

パーティが居ないから一緒に登ってくれないかと言われ、どんなクライミングをするのかと体目返上で付合うこととする。翌日、サンタ・セシリアのレフエウジの管理人サルバドルをまじり三人でセクター・トチョ・マクカナへ行く。ベルナベがまずはセッション・コンティニューア (7c+) にトライしたい、と言うのだ。真夏の日差しが照りつける昼下がり、彼は登り始める。二〇度ほどにかぶった二日のルートである。あっさりとはハングを越えていき、最後のボルトにクリップするが、体重をかけた左足の小さな壁が壁からはがれると同時に彼の細い身体も宙を舞っていた。そのままぐに落ちて、メンチャクを回収しながら降りてきてしまった。

「RPはしないのかい?」とふすねると、「今日はもう登らない」とのこと。ちょっと気分屋の所もあるようだ。まあ、暑すぎるせいもあるだろう。

彼のクライミングを表現するのは難しいが、「一旦登って筋肉でなく、「スジ」とホネで身体を支えて登っていくような印象を受けた。フランスやイタリアのコンベて見たトプクライマー達のそれからテクニカルな登りとはまた違うものを感ぜた。もしかしら、フリー・クライミングの次の時代を担うのは彼のようなクライマーなのかも知れない。